

せんなんネットワーク

第128号

発行：みやぎ地域づくり団体協議会仙南支部

会員活動紹介

おはなしの会ぴいかぶう（柴田町）



ぴいかぶうのへや 野ばら

「おはなしの会ぴいかぶう」は、初期メンバー3人で始めて今年度で30年が過ぎました。子どもたちへ読書の入り口である「絵本の読み語り」から紙芝居、手遊び、ペープサート、パネルシアター、わらべ歌なども研修に行っては届けてきました。

船岡小学校での読み語り、南東北病院の高齢者へのおはなし会などの出前を含めて、拠点である「ぴいかぶうのへや 野ばら」でおはなし会をやってきました。

子どもゆめ基金で後藤竜二さん・とよたかずひこさんの

講演会、十数回のワークショップを開催できたこと、伊藤忠財団より5回になる絵本と30万円の寄贈をいただき大型紙芝居や舞台スタンドを購入できたこと、2009年に槻木生涯学習センターで200人以上の参加者が集い東京の「紙芝居文化の会」の2人の講師による紙芝居講座が開けたこと、個人からもいろいろご協力いただいていることに感謝の念でいっぱいです。

柴田町図書館の紙芝居おはなし会はこれまでに89回実施し、大人対象の「宮沢賢治の童話を読み合う会」も13年目に入りました。会報も手書きで6年、新たにPCで83号を発行しております。

肉声で語りかけふれあうことで、想像力ある感性豊かな子どもに育ててほしい願いでやってきておりますが、今年度はさらにわらべ歌を学んで届けようと、仙台から長須賀直子さんをお招きして隔月で「わらべうたを楽しもう！」も始めました。あかちゃんの心拍に合ったわらべうたや、幼児、学童へはわらべうたの集団遊びを伝えたいと大人が本気で楽しく笑いながら学んでいます。

また、昭和初めの日本生まれの紙芝居は、その共感を育てる特性故、先の戦争のプロパガンダを担った負の歴史を乗り越え、子どもたちへ平和の未来を手渡そうと2018年に12月7日は「世界 KAMISHIBAI の日」と登録され、この日世界中で平和を願って紙芝居を演じようと55カ国の人々が参加しています。大河原駅前図書館、柴田町図書館でも行われました。仙南の地にずっと平和でみんなで楽しめる文化のさらなる広がりを心から願っています。



「世界 KAMISHIBAI の日」に開催された紙芝居おはなし会（柴田町図書館）

執筆者：おはなしの会ぴいかぶう 小塩 直枝

地域おこし協力隊として活動する隊員の方々を紹介します

今回は、白石市の地域おこし協力隊として活躍する後藤^{ひさゆき}永行さんと劉^{りゅうえい}穎さんを紹介합니다。

後藤さんは松島町出身で、令和2年に白石市地域おこし協力隊として就任しました。同年、白石城にて甲冑の着付け体験を開始し、体験中は「あしがるさん」として訪れた人を楽しませています。他にもお城を使ったキャンプやコロナ禍のオンラインツアーなど、話題となりました。令和5年9月からは新たに劉さんが協力隊に就任し、現在は2人で甲冑体験を中心に、白石城など歴史的観光資源を活用したイベントの企画運営、SNSによる情報発信など、観光振興による賑わい創出を目的とした活動を行っています。



劉穎さん

後藤永行さん



後藤さんが協力隊を目指したきっかけは、大学院修了後、地元へ帰省した際、高齢化が進んだ地元を目の当たりにし、地方創生に興味を持ったのが始まりでした。卒業後は、アパレル業界やフリーの観光ガイドなどを経験しましたが、地域の振興に携わりたいという思いから、協力隊に就任しました。劉さんは、大学院修了後すぐに来日し、地域の人とのつながりを仕事にしたいという思いと、歴史が好きということから、自身の能力を

活かせると考え、地域おこし協力隊を志望しました。現在は語学力を活かして、白石城ひめとしてSNSでの情報発信や海外からの観光客をおもてなししています。

協力隊として活動するうえで、お二人とも外の者の目線で地域の良さを発見し伝えることや、「人とのつながり」を大切にしています。今では歴史や武将、刀剣などが好きな方がリピーターとなり、中には子どもが甲冑体験の影響で剣道を始めたという嬉しい報告もありました。また、現在海外のお客様も多くなっているようで、お客様は日本の文化を知るだけでなく、実際に体験しながら地域の人とのコミュニケーションを求めて訪れる人が多く、甲冑体験を通してたくさんの人と人をつなげることがお二人のやりがいにもつながっています。



新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたこともあり、今後、よりリアルで人と人がつながることができる場を増やしていきたいと後藤さんは語ります。甲冑体験の認知度をさらに向上させていくことが喫緊の課題であり、その対策として1月には仙台市青葉区のクリスロード商店街を甲冑姿で巡るツアーを実施し、注目を集めました。情報発信の面では、英語・中国語に対応できる劉さんが加わったことで、国内に留まらず国外への情報発信も強化されました。今後広く認知を進めていき、最終的には甲冑体験を東北で1番の文化体験とすることがお二人の目標です。皆さんも一度、白石城に足を運び武将気分を味わってみてはいかがでしょうか。

あしがるさん Instagram :



白石城ひめ Instagram :



令和5年度みやぎ地域づくり団体協議会全体交流会への参加

令和5年11月17日（金）から18日（土）にかけて、みやぎ地域づくり団体協議会の全体交流会が気仙沼市で開催されました。県内各支部の、地域づくり団体の皆様や支部事務局が参加し、講演やパネルディスカッションなど交流を深めました。

【1日目 11月17日（金）】（南三陸町）

1日目は南三陸町内で交流会が開催されました。はじめに、南三陸311メモリアルにて、ラーニングプログラム体験を行いました。南三陸311メモリアルは、東日本大震災にて被災した地域住民の体験をもとに、防災・減災について考えるきっかけを提供する震災伝承施設です。施設内のシアターで、震災発生時の町の様子や住民たちの証言映像を視聴した後、災害発生時に地域の人々と助け合うために普段からどんなことを気に掛けるべきかについて参加者同士で話し合いました。

ラーニングプログラム終了後、南三陸 YES 工房に移動し、午後から第39回地域づくり団体全国交流会島根大会参加報告、講演及びものづくり体験を行いました。島根大会については、六日町合同会社の杉浦氏がリモートにより報告を行いました。杉浦氏は海士町の分科会あまに参加、町が財政破綻の危機に面した際、町民の多数決により町職員らの人件費を削減することで危機を脱した話や、削減により浮いた予算で海産物の鮮度を維持する瞬間冷却システムを導入した話などの発表がありました。



続いて、（一社）南三陸 YES 工房の大森氏より講演いただきました。YES 工房は、震災後、地元住民の雇用と交流をつくり出すことを目的に結成され、普段は南三陸町のマスコットキャラであるオクトパス君グッズや間伐材を活用したノベルティの製作を行っています。震災を受けて引きこもりがちになった地元住民のために、ものづくり体験を開催したり、今後まちづくりを担うことになる小中学生向けキャリア教育として校外学習の受け入れを実施したりと、様々な

面で地域との繋がりを持つ団体です。講演の後は、大森氏をはじめ YEB 工房職員を講師とし、スプーン・フォークづくり体験を行いました。



【2日目 11月18日(土)】(気仙沼市)

2日目は気仙沼市で、講演とパネルディスカッションが実施されました。講演は、廃棄された漁具の再利用について、amu株式会社の芦原氏に講演いただきました。amu株式会社は、廃棄された漁具を回収、提携企業と資源化した後、プロダクト開発・販売を行っています。年間約800万tのプラスチックゴミが海洋に流出しており、そのうち約40%が廃棄された漁具です。漁具は、処理料金が高いうえに船内のスペースを大幅に奪ってしまうなど、回収するメリットが少ないため海に廃棄してしまう漁師も一部います。漁具の素材で唯一リサイクル方法が確立されつつあるのがナイロンで、amu株式会社では廃漁具から生まれたナイロン素材ブランドをamuc aと命名し、取り扱っています。

講演後、「みやぎの自然を100年後の未来へつなぐために」というテーマで、パネルディスカッションが行われました。議論をまわすコーディネーターとして(一社)サステナビリティセンターの太齋氏を中心に、パネリストとして(特非)わたりグリーンベルトプロジェクトの東氏、気仙沼大川桜並木を保存する会の橋本氏、そして仙南支部長である(特非)蔵王のブナと水を守る会の白内恵美子氏が参加しました。会員の高齢化や若手世代の人材不足など地域づくり団体としての取組を継続していくうえでの課題を整理したり、現在の取組を次世代へつないでいくための解決策を検討したりして、参加者全体が一丸となりディスカッションが行われました。



事務局からのお知らせ

情報をお寄せください

仙南支部では、地域づくりに関するイベントや参加者募集など、皆さまからいただいた情報を支部ホームページに随時掲載します。また、チラシ等も県大河原合同庁舎をはじめとする管内の公共・集客施設等に設置します。PRしたい情報がありましたら、下記の宛先までお送りください。皆さまからの情報提供をお待ちしています。

会員訪問を実施しています

仙南支部事務局では、会員の皆様の活動状況等についてお伺いするため、会員訪問を実施しています。事務局から連絡させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本誌や当支部についての御意見・御要望等ありましたら、こちらまでお寄せください。

《みやぎ地域づくり団体協議会仙南支部事務局》

宮城県大河原地方振興事務所 地方振興部 商工・振興第一班

〒989-1243 宮城県柴田郡大河原町字南 129-1

電話 0224-53-3199 FAX 0224-53-3076

e-mail oksinbk@pref.miyagi.lg.jp

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/oksgsin-e/tiikidukuriindex.html>

次号は令和7年3月頃発行予定です